



富士山・東京 発 世界平和プロジェクト

100万人の稻づくり一鉢運動！

はじめに

日本は古来より「持続型・共生型の稻作漁労文化」を築いてまいりました。稻作漁労文化は「自然と人と人々が和して共に生きる」文化です。



趣旨

小さな種糲に世界平和の祈りを込めて、自宅に一鉢お田んぼをつくりませんか？自然の豊かさと、自然と人の絆を象徴するお米づくりを通して、「自然と人と人々が和して共に生きる」生き方について考え、行動するきっかけになれたら…。



成長記録、募集！

一鉢お田んぼの成長記録を、お写真や動画でお知らせください。お寄せいただいた情報は、地球フェスタ公式 HP や SNS でご紹介させていただきます。

送付先 : festa@chidama.net

お米のご寄付 送付先

一鉢でできたお米の半分を世界平和人道支援のため、ご寄付いただけますと幸いです。
〒403-0022
山梨県南都留郡西桂町小沼 1598-1
FUJISAN 地球フェスタ WA 実行委員会 宛



みんなの FUJISAN 地球フェスタ WA 2022 富士山・東京【お問い合わせ】E-mail : festa@chidama.net
【主催】FUJISAN 地球フェスタ WA 実行委員会【共催】豊島区 / JA 熊本経済連【協賛】有限会社 地球



バケツ稻づくり マニュアル

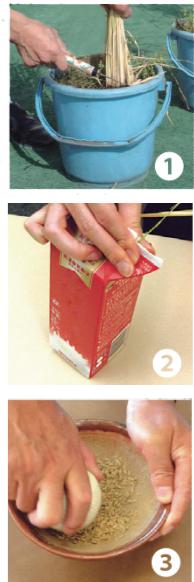
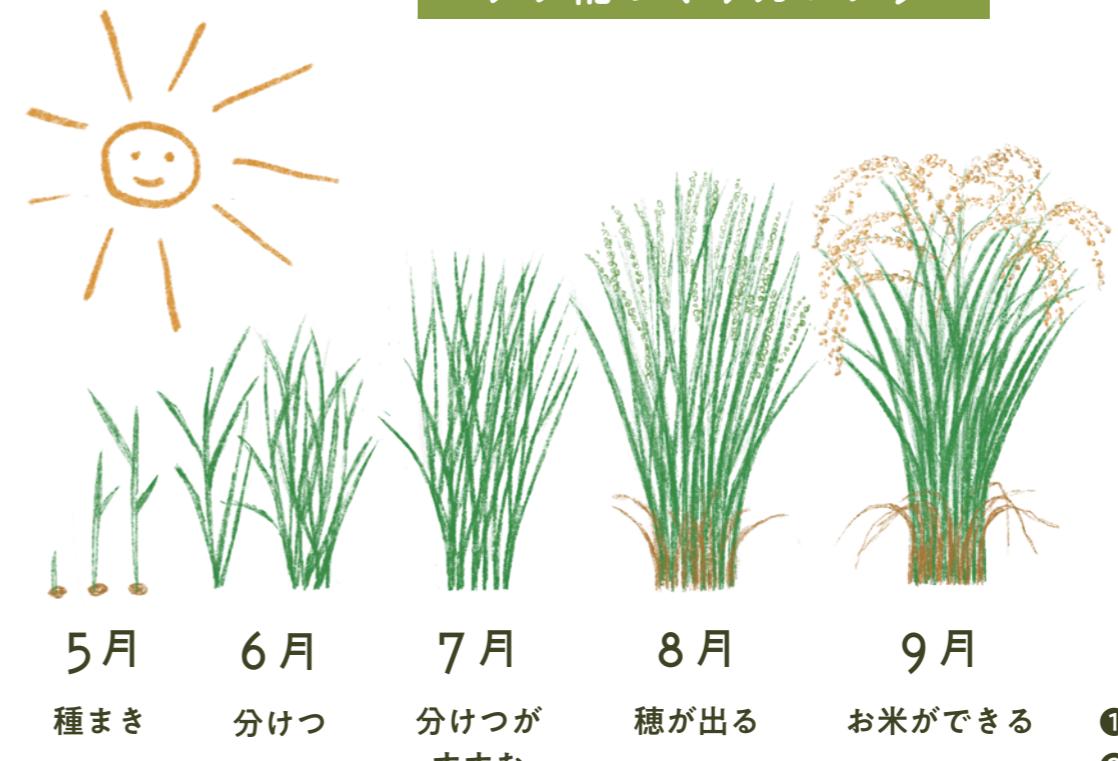
~観察しながら稻を育ててみよう！~

用意するもの

- ・ポリバケツ
- ・土
- ・種もみ・肥料



バケツ稻づくりカレンダー



10月

- ① 稲かり
- ② 脱こく（糲をはずす）
- ③ 粋入り（玄米にする）

上手につくるポイント

① 台風対策

台風などの強風の時はバケツ稻を屋内の冷房が効いていない場所に移動させましょう。



② スズメ対策

稻の周りに園芸用の支柱をたて、隙間がないように網をはりましょう。



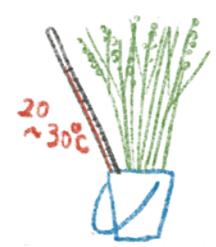
③ 病害虫対策

はん点などが出た病気の葉や、害虫はその場で取りのぞき、病気の稻は他の稻と離して育てます。バケツの水にボウフラが発生した時は、水と一緒に流し出して新しい水に入れ替えます。



④ 水温管理

水は 20 ~ 30°C が適温です。水温が高くなりすぎる場合は、水を入れかえましょう。



① 土の準備

土は、「黒土6、赤玉土（中粒）3、鹿沼土（小粒）1」の割合で用意し、ビニールシートなどに広げて乾かして、肥料を混ぜます。



●使用する土の種類と注意点●

- ①黒土の販売がされていない地域で黒土のかわりに荒木田土を使う場合
→赤玉土を2、3割混ぜてください
- ②荒木田土もなく培養土を使う場合
→有機肥料の使用がない、または少ないものを選んでください。
- ③土の説明書き肥料入りとあるもの
→最初は肥料を入れないで、中干し終了後に肥料を入れてください。

かわかと土にすんでいる菌が活気づいて、稲の成長を応援してくれるよ！



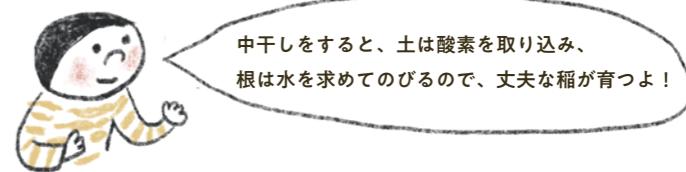
④ 中ぼし

稲の茎数が20本、草丈が40～50cm程度になったら、1～2日ほど水をぬき、雨が入らない軒下などに移動させます。土とバケツの間にすき間ができたらバケツに水を2cm入れ、なくなったらまた2cm入れます。4回繰り返した後、5cmの水を入れて保ちます。



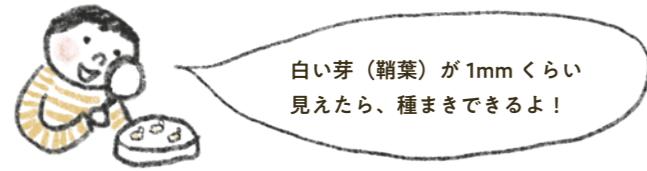
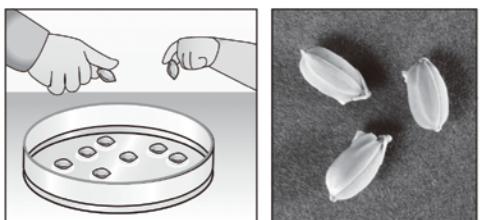
●中ぼしの注意点●

- ・中ぼしの回数は1回です。
- ・雨が入らず風通しの良い屋外に移してください。
- ※狭い容器のバケツ稻の中ぼしは、乾かし過ぎに注意が必要です。葉が細くまるまるって針状になったり、色が黄色くなってくると水分不足です。すぐに水を入れて中ぼしを終了してください。気温によっては1日で枯れる場合がありますので、よく観察しながら行いましょう。



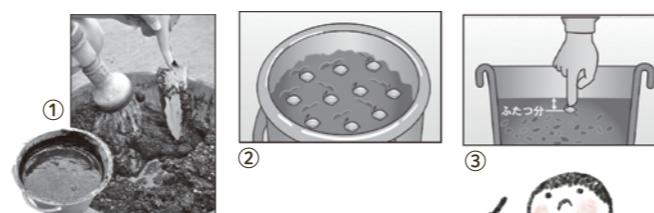
① 芽出し

シャーレなどの浅い容器に種もみがひたるくらいの水を入れます。水にひたした種もみは、室内のあたたかい場所におきましょう。種もみに酸素がじゅうぶんに行きわたるよう、水は毎日とりかえます。



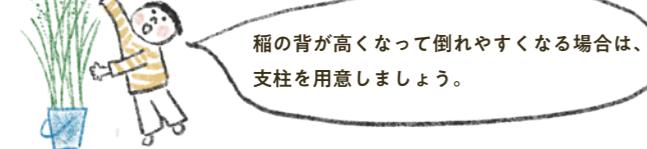
② 種まき

水とよく混ぜて泥になった土をいれたバケツに、①表面に水がたまらないくらいの水を入れます。②少し離して種もみをまき、③深さ6～7mm（種もみふたつ分）ほど指で押し込み、土をかぶせます。土がわいたら、土の表面が湿るくらいに水をまきます。種もみをスズメに食べられないように、葉が5cmくらいのびるまでザルをかぶせます。



③ 苗の移しかた

①葉が3～4枚にふえたら、②根ごとやさしく苗をぬいて茎が太く育ちのよい苗を4～5本にまとめ、バケツの中心に、2～3cmの深さに植えます。そこに水を1cmの深さに張り、根付いたら5cmの深さに水を張ります。③苗を移しかえた後から茎が増えていきます。このような稲の枝分かれを「分けつ」といいます。



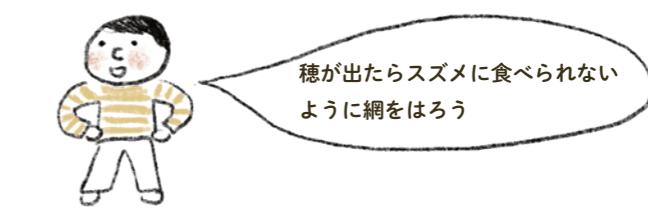
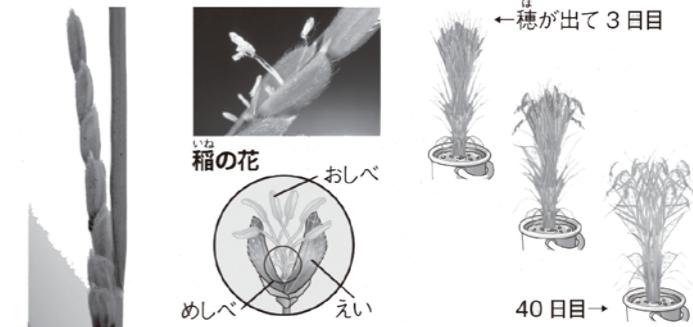
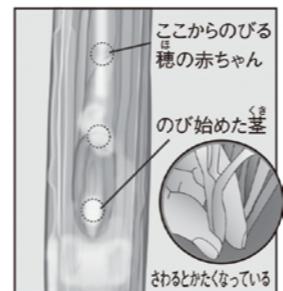
いつも食べているお米も
こうやって育っているんだね！
たくさんの手間がかかるっているんだなあ…



⑤ お米になる

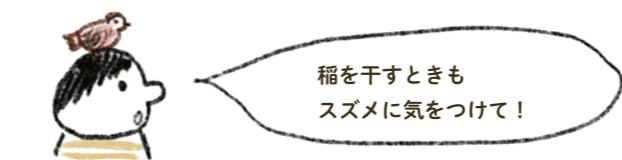
①穂の赤ちゃん（幼穂）ができると、茎がふくらみ、約20日で穂ができます。②つぼみがわれて花がさきます。おしべの花粉がめしべにつき、受粉します。③もみの中でのんぶんが固まって重くなり、穂がたれます。

※茎がふくらみ始めてから穂が出るまでは5cmの水を保ちます。穂が出た後は3cmの水を保ちます。



⑥ 稲かり

稲かりの目安は、穂が出てから40～45日ごろ、穂の約90%が黄金色になったころです。①その10日前に水をぬき（落水）、②かわかしてから稲をかります。③かりとったら穂を下にして根元をしばり、風通しがよい場所で10日ほどほします。



⑦ お米にする

- ①脱こく（穂からもみをとる）…茶わんや牛乳パックの中に穂を入れて引っぱると、もみが容器の中に残ります。
- ②もみすり（玄米にする）…すりばちにもみを一握り入れ、軟式野球ボールでゆっくり上方まで上ります。息をふきかけて、もみがらを飛ばします。

